天　　気　　1990年1月
Vol. 37, No. 1

# 巻頭言

## —1990年代を迎えるにあたって—

理事長　浅井冨雄

20世紀最後の10年，1990年代を迎えるにあたり，日本気象学会会員の皆様に新年の御挨拶を申し上げます．

米国の時事週刊誌「Time」の表紙は例年「時の人」の顔写真で巻頭の表紙が飾られ，その年の話題や動向がその人物によって象徴されるのがならわしです．ところが，昨年1989年の新年号は型破りで，人類の無鉄砲な振舞いにより危機に瀕しているかのごとくポリエチレンで包まれ，縄をかけられた「地球」が Planet of the Year, Endangered Earth という副題付きで「人物像」にとって変わり写し出されていました．たしかに，昨年は蓄積されてきた潜在エネルギーが一挙に噴出したように，「地球環境問題」に明け暮れしたあわただしい1年でした．

地球環境について多くの人達が関心を持ち，関係諸機関がその調査研究活動に目を向けるのは好ましいことです．社会とのかかわりの強い気象学の宿命でもありますが，社会的要請が科学的水準を越えていることの苦い経験を繰り返しながら今日に至りました．その強いインパクトをスプリングボードにして気象学が発展してきたことも事実であり，今はまさにその好機であり，科学を行政に反映する道を拓く絶好の機会でもあります．しかし，やや，ブーム的に，政治的に取り扱われる懸念がないわけではありません．最近の動きの一部には悪のりの感なきにしも非ずです．地球環境に関する課題の多くは一朝一夕に片付く問題ではなく，その解明には地球科学に係わる数多くの基礎研究の蓄積を必要とします．今日，地球環境問題を科学的に論じ得るのも長年にわたる営々とした観測・研究の成果に負っています．

近年，日本気象学会の研究集会，機関誌等を通しての研究発表は量的にも増大し，質的にも向上しつつあることは喜びにたえません．昨年秋，沖縄支部にお世話をいただき，日本気象学会史上初めて那覇市で大会を開くことができました．しかも予想を上回る盛会であり，好評でもありました．今後更に多くの各地で大会が開けることを，そしてそれが各地域での研究・調査活動のより一層の向上に役立つことを願っています．一方，欧米先進諸国のみならずアジア近隣諸国との研究協力をも密にして真に国際的な学会として発展しなければなりませんし，それに応じて責任も重くなってきます．1993年には国際気象学大気物理学協会(IAMAP)第6回総会が横浜国際平和会議場（予定）で開催されることになりました．IAMAP 総会は気象界最大の研究集会であり，アジアで開かれる最初のものでもあります．最近，我国から海外の研究集会に参加する人は増加し，日常の交流も繁くなりつつありますが，依然としてそれは一部に限られています．世界中の各分野の第一線の研究者が大勢集まる IAMAP 総会は貴重な機会であり，研究面での成果はもとより，個人的・組織的にも国際交流・協力の発展・強化に活用していただきたく思います．

現在実施されつつある諸々の国内はもとより国際協同研究の成果や現在立案中の研究計画の実施等の多くは1990年代に設定されています．会員諸氏の一層の御活躍を期待します．